

コロナワクチン接種レポート

終業式でコロナのワクチンを接種する話をした。今回は、その体験をお伝えする。私が接種したのは、モデルナ製。「新型コロナウイルスが細胞に感染するときの足がかりとなるスパイクたんぱく質を作るための遺伝情報を含む物質、『mRNA』を投与する仕組みです。＜中略＞ウイルスを攻撃する抗体を作るよう促します。(NHK ホームページ)」という特徴がある。

1 回目は副反応も少なく・・・

6月になって姫路市から接種券が届き、自衛隊運営による大規模接種センターの予約が可能だという情報があったので、すぐに予約サイトから予約を行った。予約は簡単で、1回目は、6月26日(土)9:30、グランキューブ大阪での接種になった。当日会場に到着し、予約内容のスマホ画面を提示すると、入り口で体温計測後、待機場所へ移動。予診票(当日の体調、アレルギーの有無など)を記入し、医師の問診を受けて接種可能と判断され、実際に左上腕部に接種された。その後、2回目の予約を含めて、副反応への備えとして15分の待機を徹底され、その後解放された。翌日、接種された左上腕部に若干の腫れと鈍痛があったものの、それも翌々日にはほとんど無くなり、大きな副反応もなく1回目を終えた。

2 回目はしっかりと副反応・・・

2回目は、4週間以上空けた7月31日(土)9:00、同じ会場で、ほぼ同じ手順で終了した。当日は、特に問題なく過ごせたのだが、翌8月1日(日)朝起きると、「来たか・・・」という言葉がぴったりの印象だった。熱は、37度ほどだったが、身体が重い。節々がだるい。まるでインフルエンザに罹った時のような症状が襲ってきていた。座っているのも厳しかったので、ベッドで横になっていた。すると、そのまま眠ってしまっていた。空腹は感じたので、重い身体に鞭打って昼食をいただいた。それでもまだ身体の重さは引かなかったで、またベッドにもぐりこんだ。周りが暗くなったころにまた空腹を感じたので、さらに重くなった体を支えて起き上がり、夕食をいただいた。短時間でふろを済ませ、またまたベッドに横たわり気づいたら翌朝だった。合計で何時間眠っただろう。8月2日には、発熱後のようにすっきりしていた。副反応は人それぞれだと聞いているが、私は自分の身体がワクチンにしっかり反応してくれていることを実感しながら、その回復を待つことができた。東京都医師会副会長猪口正孝氏によると、「実際にコロナに罹ってしまった患者さんたちの話をお聞きになるとわかりますが、39度くらいの高熱が出ると、それだけで生きるか死ぬかを考えてしまいます。経験したことのないような倦怠感や味覚障害も起きます。若い方でも、その症状は副反応とは比べものにならないくらい苦しいものです。＜中略＞感染予防は3人に2人くらい、70%くらいは効くのですけれども、重症化予防は90%以上とかなりの確率で効いています。多くの方が、ワクチンを打つことによって重症化していないのは確かだと思います。」ということだ。現に接種が進んだ高齢者の感染・重症化は確実に減少している。若年者は比較的重症化することは少ないということだが、特に3年生は進路を控え、2年生は修学旅行が現時点で予定されている。感染拡大が続いている。体調不良時には登校しない、不織布マスク着用など感染拡大防止対策をこれまで以上に徹底するとともに、クラスター発生・感染防止と各自の重症化防止の観点でのワクチン接種(可能ならば)は、挑戦の一つと言えるかもしれない。



We keep on challenging. 挨拶日本一の高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩